

七尾商工会議所「景況・業況動向調査結果報告」 (令和5年1~3月)

当所では、管内の景気動向を把握するため、役員・議員・評議員・会員の皆様にアンケート調査を実施しました。令和5年1月~3月(第4四半期)の調査結果は以下の通りです。

DI	景況感	売上高	売上単価	仕入原価	資金繰り	採算性
全産業 (今期)	30.2	25.5	35.6	▲67.3	39.4	▲1.9
(来期) 見込み	15.1	15.1	32.7	▲60.6	27.9	▲8.5
製造業 (今期)	39.3	50.0	46.4	▲78.6	39.3	▲10.7
(来期) 見込み	32.1	28.6	32.1	▲75.0	17.9	▲25.0
建設業 (今期)	33.3	27.8	5.6	▲100	55.6	16.7
(来期) 見込み	▲16.7	0.0	38.9	▲83.3	38.9	▲33.3
小売業 (今期)	▲40.0	0.0	10.1	▲70.0	▲10.0	20.0
(来期) 見込み	30.0	30.0	30.0	▲10.0	20.0	20.0
卸売業 (今期)	33.3	▲8.3	8.3	▲16.7	33.3	16.7
(来期) 見込み	41.7	16.7	50.0	▲41.7	33.3	25.0
サービス業 (今期)	39.5	23.7	58.3	▲58.3	47.2	▲15.8
(来期) 見込み	5.3	7.9	25.0	▲58.3	30.6	▲2.6



とにかく好調 50 ≤ DI
好 調 5 < DI < 50
まあまあ -5 ≤ DI ≤ 5
不 振 -50 < DI < -5
きわめて不振 DI ≤ -50

DIディフュージョン・インデックスとは『増加・上昇・好転』の割合(%)から『減少・低下・悪化』の割合(%)を差し引いた指数です。

全体の景況感について ~「コロナ5類移行」も見通し厳しく~

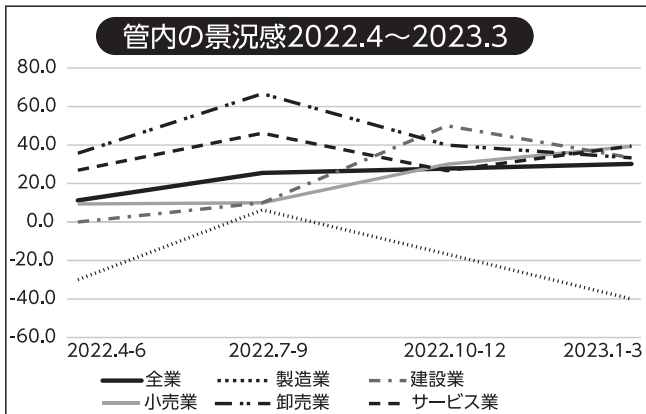
本調査期間中(1~3月)の景況感は、前期(10~12月)に比べ「不変」と回答した割合が56%と最も高く、「好転」は22%、悪化は「21」%となりました。来期(4~6月)の見通しについて「悪化」と回答する割合は30%を占めました。

新型コロナウイルスの影響について、58%が「改善してきている」と回答しました。「コロナ5類移行」による観光客数増加などに期待する声が聞かれた一方、原油・原材料費の高騰により「浮揚感を感じられない」などといった厳しい見方もありました。

政府の燃料油価格激変緩和措置は9月末までとなっており、より一層のエネルギー価格高騰が見込まれます。対策として「新機器への設備更新」を選択した割合が32%となり、昨年度(17%)から約2倍増となりました。

政府の措置が終了する前に電力消費、燃料消費削減のための整備が急務となっています。

2022年度景況調査結果



小売業を除き、全体的に景況感がプラスで推移しました。コロナ禍による影響が収束し始め、冷え切った経済が持ち直しを見せましたが、年末ごろから始まった物価高による利益減少が足を引っ張り始め、各社販売単価の向上、利益確保のための無駄の削減に積極的に取り組んでいる真っ只中です。

各DI値がプラス推移しているのは、あくまでもコロナ禍での激しい落ち込みからの回復基調であることを示しており、決して各社が順風満帆な経営状況までは回復していません。先行きは、コスト増や人手不足等で慎重な見方が多いです。

実施期間: 令和5年4月8日~4月25日
対象期間: 令和5年1~3月期
有効回答数: 53件(オンライン37件、書面16件)
回答形式: 選択回答(複数回答可) および自由回答

次回の令和5年4月~6月(第1四半期)の調査は、7月の会報紙面で告知する予定です。皆様、ご協力の程、よろしくお願ひします。